

第 26 回建設業経理士検定試験 2 級試験問題

< 第 3 問 >

次の<資料>に基づき、解答用紙に示す各勘定口座に適切な勘定科目あるいは金額を記入しなさい。なお、記入すべき勘定科目については、下記の<勘定科目群>から選び、その記号（A～H）で解答しなさい。

（資料）

1. 工事原価の状況

（単位：円）

	材料費	労務費	外注費	経費
工事原価期首残高	92,000	47,000	137,000	37,000
工事原価次期繰越額	112,000	62,000	145,000	43,000
当期の工事原価発生額	463,000	97,000	595,000	92,000

2. 完成工事のうち請負金の支払が次期以降のものが¥452,000 あった。

（ 勘定科目群 ）

A 完成工事高

B 完成工事未収入金

C 支払利息

D 未成工事支出金

E 完成工事原価

F 損益

G 販売費及び一般管理費

H 未成工事受入金

※ 次ページより解説があります。

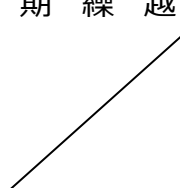
< 第 3 問の解説 >

まず、『未成工事支出金』勘定を完成させます。

資料 1 より、
工事原価期首残高の合計が、前期繰越になります。
工事原価次期繰越額の合計が、次期繰越になります。
当期工事原価発生額が、そのまま各項目の額になります。

『未成工事支出金』は、まだ完成していない工事の原価を集計する勘定科目です。
その『未成工事支出金』から、次期に繰り越されなかった分は、
完成した工事の原価ということなので、『完成工事原価』に振り替えられます。

以上より、『未成工事支出金』勘定は、次のように完成します。

未成工事支出金					
前 期 繰 越	313,000	E	1,198,000		
材 料 費	463,000	次 期 繰 越	362,000		
労 務 費	97,000				
外 注 費	595,000				
経 費	92,000				
× × × × ×		× × × × ×			

これにより、『完成工事原価』勘定も、次のように完成します。

完成工事原価			
D	1,198,000	損 益	1,198,000

次に、資料 2 より、工事代金をまだ受け取っていないものが¥452,000 あるということ
なので、『完成工事高』勘定は、

完成工事高			
F	1,569,000	B	452,000
		未成工事受入金	1,117,000
		× × × × ×	× × × × ×

『販売費及び一般管理費』勘定は、借方の金額が決まっているので、

販売費及び一般管理費									
×	×	×	×	112,000	F	215,000			
×	×	×	×	103,000					
				×			×	×	×

最後に『損益』勘定にまとめると、

損益									
E	1,198,000		A	1,569,000					
G	215,000								
繰越利益剰余金	156,000								
	×	×	×	×	×				
					×	×	×	×	×

となります。

それぞれの勘定の流れを把握しておきましょう。